	夏	江別
·北海道医歌人会詠草	D は に よ が	、 己意 、 安らぎの時 、 ビヴァレンス
オオマツヨイグサ 札幌 浜島 泉	大通公園	札幌
ノブドウとヤマブドウのつる混生す若だてる葉と蕾が豊か黄なる花多しこの時季遠目にも色あひ薄きオオマツヨイグサ	混沌と混乱つづく日の本を救ふ方途はただ三つ智き頭腦と強き意とかと混乱つづく日の本を救ふ方途はただ三つ智き頭腦と強き意とかと、ボ採り今日はいずこぞ『加賀の千代』そにいざな	こそにいざな
曲がらざるべき交差にて左折せる回送バスを見送りし午後ジャガイモは芽吹きアフラナ花開く季節到るも休耕の畑	南国に未曾有といはる大豪雨狼狽せずに対処なすべしルピナスは色淡けれと形よく広き大通公園に燦と輝く	、対処なすべし
展翅標本 釧路 児玉 昌彦てん しこうない しょうしょう しょうしょう しょうしょう ううしょう しょうしょう しょう し	聖書と念佛	えきそふがに れ 幌
〒の見えし医の友に重き心で文したためぬ	聖書置くビジネスホテルに泊りたり般若心経置くは聞	2心経置くは聞
	旧約を解くは難し慈悲を説く坊主の経と相通うもの念佛の隠居の齢佛壇をわれ持たざれば聖書でも讀むか	1相通うもの
蝶の翅に魅せられし君の記念にと通夜の日購う展翅標本夫逝きて息子らの前で心なし小さくなりし夫人の姿	経典の文字は讀めねどひたすらに唱えて浮かばれる念重火器を持たざるむかし地を求め侵掠殺戮神の名のも	、浮かばれる念
共感 旭川 稲積 文子	「都行弥生」百年記念	美唄
共感する友よりの便り嬉しかり卆后の長き空間を経て喜んで菜園作業を手伝う人多く楽しく頒つキウリ・ナス・トマト	歓ばし卒業六十年この年に「都ぞ弥生」百年を迎ふ清き國を希ひ百年の「都ぞ弥生」記念植樹は陳羽織着て	日年を迎ふ
逆らいて心痛むは誰ならん墓参の跡の新らしき花ジャジャ馬と揶揄して喜ぶ人在りて短命にこの世を去りてしまえり	移されし恵迪寮の入口の新名札掛けに我が名を掲ぐ声涸らし「都ぞ弥生」五番迄歌ひ終へたり甦へる日々	、が名を掲ぐ
心弱き人間に育てし母吾れが頼らんとするは子も同じ場所	若き日の三年過ごしし恵迪の名札見上げる我八十五歳	る我八十五歳

カチバッテュラみと、こそのいてその実を商ご真夏日のどろし、ションション、ション、ション、ション、ション、ション、ション、ション、ション、	次
薔薇よ薔薇けばけばしさと可愛さのアンビヴァレンス汝は小悪魔 幺子カーデュニティナレシタオオニ系の写き折す真夏日の宮	
娘らは薄着のままで陽の中を長い素足で気ままに歩く波際にAKB似の子ら燥ぐその声聞くは安らぎの時	
北国の夏は足早昨日まであの暑かった儚い記憶	
大通公園 机幌山口 康德	徳
見もい見しつがいうのなどない方金はいどこの習い質問にまい意志・ニューマニズトンボ採り今日はいずこぞ『加賀の千代』そにいざなはれ秋色の濃	L
う目ここれ「こ、ようことうとうと、これで、「こう」、いたいとうとうという、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	
八紘の学園に咲きたる杜若菖蒲と共に妍きそふがに	
聖書と念佛 札幌 古屋	統
聖書置くビジネスホテルに泊りたり般若心経置くは聞かざる	
念佛の隠居の齢佛壇をわれ持たざれば聖書でも讀むか	
旧約を解くは難し慈悲を説く坊主の経と相通うもの	
経典の文字は讀めねどひたすらに唱えて浮かばれる念佛やよき重火器を持たざるむかし地を求め侵掠殺戮神の名のもと	
「都ぞ弥生」百年記念 美唄 吉村 誠治	治
清き國を希ひ百年の「都ぞ弥生」記念植樹は陳羽織着て	
歓ばし卒業六十年この年に「都ぞ弥生」百年を迎ふ	
声涸らし「都ぞ弥生」五番迄歌ひ終へたり甦へる日々	
移されし恵迪寮の入口の新名礼掛けに我が名を掲ぐ	

23